

## 都市縮退地域の分布と分布地域の特徴

### The distribution and characteristics of Urban Shrinking Area

○森映喜\*、服部俊宏\*\*、上野裕士\*\*\*、橋本禪\*\*\*\*

○MORI Akiyoshi, HATTORI Toshihiro, UENO Hiroshi, HASHIMOTO Shizuka

#### 1. はじめに

日本では2006年から人口減少時代に突入している。これまで拡大を続けてきた首都圏をはじめとする大都市近郊においても、郊外における都市の縮退が憂慮されている。都市縮退がみられる地域においては、地域社会や地域資源管理のあり方を再構築しなければならないが、現状ではどのような地域で縮退が開始しているかも十分に把握されているとは言い難い。そこで、本研究では都市縮退がみられる地域を抽出し、そのような地域の特徴を明らかにする。

#### 2. 分析方法

東京の通勤圏（東京特別区への通勤率が5%以上）の159市区町を対象に、まず市区町単位での国勢調査人口変化パターン（1970～2010）と直近5年（2005～2010年）の国勢調査人口変化を指標として、縮退地域を抽出した。

次に、縮退地域の特徴を明らかにするために、都心からの距離(国土数値情報(市町村役場の経緯度データ)、2006)、世帯当たり人口(国勢調査、2005)、人口密度(国勢調査、2005)、人口千人当たり病床数(医療施設調査、2009)、人口千人当たり産業事業所数(事業所・企業統計、2006)、人口千人当たり販売農家数(農業センサス、2005)、耕作放棄地率(農業センサス、2005)、昼夜間人口比率(国勢調査、2005)、地価増減率(国土数値情報、2005～2010)を分析した。

#### 3. 縮退地域の抽出

##### (1)人口変化パターンからの抽出

1970年から2010年までの国勢調査人口の推移から、対象地域を反転成長地域（当初減少していたが、ある時期から増加に転じた地域：20市区）・成長地域（1970年から2010年まで増加が続いた地域：95市区町）・停滞地域（一度減少が始まったが直近5年は持ち直しの傾向にある地域：15市町）・縮退地域（増加から減少に転じた地域：29市町）の4種類に分類する（図1）。

その結果、反転成長地域が都心を中心に分布し、その外側に成長地域、停滞地域、縮退地域がそれぞれ順に分布している。停滞地域、縮退地域は、茨城県・埼玉県・千葉県に多く、東京都・神奈川県では少ない。

##### (2)直近5年の人口変化

2005年人口を1とおいた時の2010年の人口を示す（図2）。1以上を成長地域、1未満を縮退地域とする。市区町数は、1.05以上が37、1以上1.05未満が87、0.95以上1未満が31、0.95未満

\*明治大学大学院農学研究科 Graduate School of Agriculture, Meiji University

\*\*明治大学農学部 Faculty of Agriculture, Meiji University

\*\*\*内外エンジニアリング Naigai Engineering Co.,Ltd.

\*\*\*\*京都大学大学院農学研究科 Graduate School of Agriculture, Kyoto University

キーワード 都市近郊、首都圏、都市縮退、外縁、未成熟

が4である。縮退地域は、茨城県の一部、埼玉県中央部、千葉県北部・中東部、三浦半島などに分布しており、都心から遠い地域で縮退傾向が大きいことわかる。

#### 4. 縮退地域の特徴

3. の各地域区分別の特徴（当該市区町の平均）を表1、表2に示す。

人口変化パターン別の特徴としては、都心からの距離と地価増減率の地域別の値から、都心から距離が離れているほど縮退しやすく、その縮退程度は地価下落率として反映されるといえる（表1）。また、人口密度が低く、農家数の多い農村地域であるほど縮退傾向が大きいことが見て取ることができる。

直近5年の人口変化別の特徴としては、距離、地価、1世帯当たり人口、人口密度、農家数でほぼ人口変化パターン別と同じ傾向を示した（表2）。一方、人口比0.95未満の地域においては、昼夜間人口比率、人口密度、耕作放棄地率、病床数などで厳しい数値を示している。

#### 5. まとめ

都市縮退は通勤圏の最外縁部で、都市として十分成熟していない地域で発生していることが確認された。しかし、最外縁部でも縮退の様相に相違がある。縮退を規定している条件を特定するためには、さらなる検討が必要である。

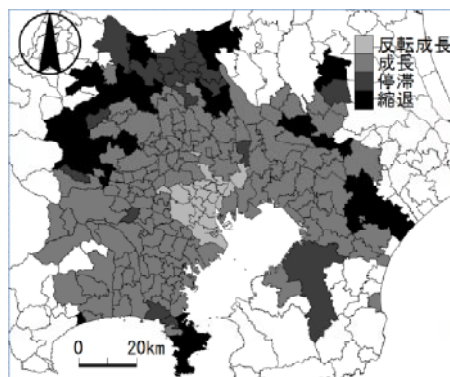


図1 人口変化パターン  
Fig.1 Pattern of Population Change

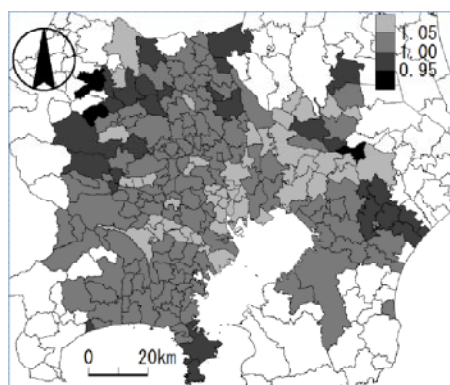


図2 直近5年の人口変化  
Fig.2 Last 5 Year's Population Change

表1 人口変化パターン

Table1 Pattern of Population Change

	都心からの距離 (km)	1世帯当たりの人口 (人)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	千人当たり病床数 (床)	千人当たり販売農家 (戸)	千人当たり事業所数 (ヶ所)	耕作放棄地率 (%)	昼夜間人口比率 (%)	地価増減率 (%)
反転成長地域	8.5	2.01	14488.7	11.9	0.2	135.9	6.4	272.4	17.3
成長地域	31.5	2.59	5429.2	9.2	5.6	32.8	10.7	87.4	-1.9
停滞地域	42.8	2.99	2809.1	14.4	12.2	34.6	17.8	86.9	-6.2
縮退地域	47.7	2.90	1709.3	11.2	17.2	36.5	17.9	86.9	-11.3

表2 直近5年の人口変化

Table2 Last 5 Year's Population Change

		都心からの距離 (km)	1世帯当たりの人口 (人)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	千人当たり病床数 (床)	千人当たり販売農家 (戸)	千人当たり事業所数 (ヶ所)	耕作放棄地率 (%)	昼夜間人口比率 (%)	地価増減率 (%)
成長地域	1.05以上	23.2	2.48	7249.9	12.5	8.5	83.2	13.4	183.1	6.5
	1.00以上 1.05未満	30.8	2.56	6478.3	8.6	4.6	35.5	9.6	89.2	-1.2
縮退地域	0.95以上 1.00未満	46.7	2.86	2037.3	13.5	16.2	35.7	18.2	88.0	-10.9
	0.95未満	51.3	3.11	560.5	5.4	22.9	35.5	27.6	78.1	-14.2